

共同宣言文

一八五七年オランダ王国で建造された咸臨丸は、日本の歴史の中で最も大きな変革期とされる幕末から明治という激動の時代に生き抜いた、歴史の象徴であります。

いうまでもなく、幕末の開国の嵐が吹きすさぶなかで遣米使節団を乗せ、日本人初の太平洋横断をなし遂げ、他国との交流の扉を開くとともに、勝海舟、福沢諭吉、ジョン万次郎ら日本近代化を担った英傑を生むなど、その後の日本近代化の礎となりました。

この咸臨丸がここ木古内町サラキ岬に座礁沈没して百四十年を経た本日、その遙かなる時空をこえて、オランダ王国大使館、咸臨丸ゆかりの地の方々、そして太平洋横断時の乗組員の子孫の方々が初めて一堂に会し、『咸臨丸全国まちづくりサミット』の議論を通して篤き交流の絆を結び得たことは、幸甚の極みであります。

咸臨丸栄光と悲劇の十四年の足跡は、たとえ永き時を経ても、激動の時代に生きた歴史の証人なればこそ、豊かであるといえども確かな明日を見出しきれない今日の私たちにその道標を示唆するものであります。

ここに、咸臨丸を縁とする私たちは、この度のサミットの議論を通して、咸臨丸を核としたまちづくりを推進するために次の通り宣言します。

- 一、 私たちは、咸臨丸を核とした出逢いの絆を更に強いものにし、各地域の人や文化の相互交流を促進し、様々な分野におけるまちづくり活動に役立てる。
- 一、 私たちは、交流の絆を一層確かなものにするために、各地域の特色を活かして『咸臨丸全国まちづくりサミット』を継続して開催する。
- 一、 私たちは、未だに謎の多い咸臨丸の晩年の歴史を関連する各地域が連携して調査研究し、その解明を図る。
- 一、 私たちは、その具体的な取り組みの一つとして、今なおサラキ岬沖に眠る咸臨丸を掘り起こすための協議検討を行う。

以上、これらの宣言を実現するため、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成二十三年九月二十四日

北海道木古内町における咸臨丸全国まちづくりサミット